

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 15 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25450203

研究課題名(和文) 流域圏における近代農山村遺産の再評価 - 那珂川流域、多摩川流域を事例に -

研究課題名(英文) Reappraisal of modern rural heritage on each river basin area: a case study of the Naka River and the Tama River

研究代表者

山本 美穂 (Yamamoto, Miho)

宇都宮大学・農学部・教授

研究者番号：10312399

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：流域圏という範囲、およそ150年間という時間タームを対象として、農村の木造古民家という具体的事物を材料に近代農山村遺産の再評価を行った。単なる事例研究の域にとどまらず、具体的な時間軸と空間軸の中に事例を位置づけて評価する歴史地理学的視点を通して、近世を射程に入れた地域研究の課題と重要性がより明確となった。

研究成果の概要(英文)：Reappraisal of modern rural heritage was made aiming at the space scale of the river basins and the time scale of 150 years, using rural wooden old house. From the viewpoint of historical geography of positioning and evaluating an example in frame of time and space, the subject and importance of the area studies which put pre-modern times into the range became clearer.

研究分野：森林政策学

キーワード：流域圏 近代農山村遺産 那珂川流域 多摩川流域 歴史地理学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、東京大都市圏の近世史と深く関わる二つの一級河川流域圏における近代農山村遺産の再評価をめざすもので、学術的背景として以下のことが挙げられる。

第一に、流域圏という地域単位もしくは概念の再検討の必要性である。自然立地的経済圏を再構築して戦略的に地域振興の中核とする試みは、欧米諸国では議論が蓄積されているが、日本では流路復元や希少種保護などミクロレベルの取り組みが模索される一方、流域スケール、複数の流域を同時に視野に入れたマクロ的視点からの試みは行われていない。

第二に、近代化初期の地域農林業・流通構造解明の必要性である。上記に関わり地域経済振興の中核をどの時間スケールで捉えるかという課題がある。多くの社会調査が戦後統計初年度からの約 60 年を対象とした時系列上に行われているが、統計上の制約に加えて、現行の森林政策が向かい合う諸課題が殆ど戦後人工造林に関わるという、分析者側の持つ認識の限界によるものが大きい。

第三に、民有遺産の保全・継承上の課題についてである。伝統的木造建造物である古民家は、地域固有の森林資源、建築様式等を留める記録媒体でもあるが、私的財産である木造古民家は、無住化と同時に放置され、多くはその歴史的価値を評価されることなく老朽化し、「地域遺産」としての記録も残されず消滅しつつある。

総じて、既存研究における時間軸、空間軸の限界を超え、森林に関わる国土開発および地域振興の本質に迫る地道でスケールの大きな研究が強く求められている。

## 2. 研究の目的

明治期統計と地域調査をもとに、自然立地上に展開した農林業および水運、伝統的木造建造物の再評価を通じて、土地固有の自然と人との関わりを記述し、流域という地域振興における基礎単位の重要性について提起することを目的とする。事例として、近世以来の流域開発が最も激しく進行し、人と自然のつながりが極めて希薄化した多摩川、逆に極めて緩やかに進み、江戸期水運の名残を農山村文化に留める那珂川の二つを対象とする。近代化以降見えにくくなった自然立地と開発のあり方、今後の国土計画と地域振興において重視すべき今日的課題を明らかにする研究である。

## 3. 研究の方法

1) 近代化初期における流域圏域市町村の農林業構造の解明：多摩川流域、那珂川流域で近代化初期にどのような農林業が展開したか。明治期統計値の土地利用、農林業生産物、

各産物の収量、農業戸数、人口等について統計解析を加え、地域的特色、地形など自然条件、市場距離など社会条件などについて、日本が資本主義社会へ突入する前の自然立地的な農林業の姿を流域レベルで明らかにする。

2) 流域圏における 100 年間の各指標の比較分析：同一エリアにおける統計値および文献を用いて上記と比較検討し、近代化以降約 100 年間の流域圏の変貌と共通点を明らかにする。

3) 地域遺産の特定および保全・継承への課題：対象流域内特に那珂川流域における伝統的木造建築物のうち、多くは 100 年以上の建造物であり農村史上の意義が大きい木造長屋門を対象としその存在形態を明らかにする。百年来の民有地域遺産の保全・継承の現状が広域的に明らかとなる。

本研究は、統計情報の整理、文献調査、地図情報の構築、フィールド調査、の 4 つの手法で遂行される。については、明治期統計書の判読、入力、クリーニングという膨大な作業が必要である。とは社会調査の基本的なスタイルで行われるが、地図情報の構築に当たっては、GIS の基本的ツールが必要であり、共同研究者である高橋がこれを担当する。これらにより、流域圏という失われた自然圏域を現代に蘇らせ再検討を促すという目的が達成される。

## 4. 研究成果

1) 統計情報の整理・入力・解析（明治期統計書）：2 つの流域圏域を含む栃木県、茨城県、東京都、埼玉県の最小単位（明治市制町村制当時の旧市町村）の府県統計書について判読、入力、解析終了。

2) 文献史料の収集・整理：多摩川・荒川、江戸川、鬼怒川、那珂川の各流域では 16 世紀から 19 世紀にかけて森林の造成が始まり、最上流にあたる黒羽藩に残された「太山の佐知」（1849）、「山林記」（1857）ほか一連の興野家文書にみる山林書は、2014 年度に一般社団法人日本森林学会によって林業遺産第一号に選定された。これら文書の解読によって近世当初の伐採、売買の一端が明らかとなった。

3) 地図情報の構築：入力・解析情報（明治期統計書）の GIS への反映：入力した統計情報の解析結果で明らかとなった地域特性等を GIS 上に反映させ研究会で議論の材料とした。主に研究分担者の高橋が担当した。

4) フィールド理解：那珂川水運のうち黒羽河岸を中心とした水運について、郷土資料等の確認を進め、那珂川全流域の踏査を終了。

5) 那須烏山市旧境村地区における近世村落

の森林利用と明治以降の行政区との関係について明らかにした。那須烏山市旧境村地区大木須において古民家改修事業により発見された追加資料の整理、判読を進め、今後の研究に繋がる材料とした。

総じて、流域圏という範囲、およそ 150 年間という時間タームを対象として、農村の木造古民家という具体的事物を材料に近代農山村遺産の再評価を行った。単なる事例研究の域にとどまらず、具体的な時間軸と空間軸の中に事例を位置づけて評価する歴史地理学的視点を通して、近世を射程に入れた地域研究の課題と重要性がより明確となった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

- 1) 山本美穂・高橋俊守: 関東平野の流域によみがえる近代農山村遺産, 特集論考, 農村計画学会 32-1 号 (2013)
- 2) 佐藤大樹・山本美穂: 栃木県「森林環境税」における普及啓発活動の現状と課題 - 宇都宮市内小学校へのアンケート調査を通して -, 宇都宮大学農学部演習林報告第 49 号, 61-68 (2013)
- 3) 山本美穂: 主伐期を迎えた民有人工林の持続的再生産をどう描くか, 農村と都市をむすぶ, 12 月号, No. 758, 11-19 (2014)
- 4) 佐野薫・渋谷侑・山本美穂: 栃木県佐野市産 125 年生ヒノキ大径材の生産・流通構造, 関東森林研究 65-2, 261-264 (2014)
- 5) Yamamoto M., Sano K., Onuki Y.: Grope management of private forest in Japan: Case study of North Kanto area, IUFRO 3.08 & 6.08 Joint Conference, Future Directions of Small-scale and Community-based Forestry Proceedings, IUFRO, 294-299 (2014)
- 6) 山本美穂: 人工林資源の持続的再生産と獣害, 日本の科学者 Vol. 50 (2015 年 9 月号), pp. 44-48 (2015)
- 7) 山本美穂: 地方創生と森林・林業, 森林技術 No. 882, 3-6 (2015)
- 8) 高橋俊守: 新聞記事データベースの解析による明治期以降の多摩川における生態系サービスの変遷, 宇都宮大学地域連携教育研究センター研究報告 23, 23-29 (2015)

[学会発表](計 13 件)

- 1) Miho Yamamoto, Kawori Sano, Yasuaki Onuki: Group management of private forest in Japan- case study of North Kanto area-, IUFRO 2013 Joint Conference of 3.08 & 6.08, Kyushu University, Fukuoka, Sep. 10th

- 2) 佐野薫・渋谷侑・山本美穂: 大径材の生産・流通構造 - 栃木県佐野市における 120 生スギ材を事例として -, 第 3 回関東森林学会大会, 東京都府中市, 2013 年 10 月
- 3) Takahashi T.: A Site Assessment of Satoyama and Ecosystem Services in Tochigi Prefecture, Japan, Satoyama landscapes in Japan, Germany and beyond - implementing biodiversity and ecosystem services as novel concepts for sustainable land management, Oral presentation, April 6, Tokyo, Japan (2013).
- 4) Takahashi T. and M. Nishi: The relationship between ecosystem services and human use, focused on sweetfish in the Tama River, Japan, 14th Global conference of the international association for the study of the commons, Poster presentation, June 3-7, Kitafuji, Japan (2013)
- 5) Nishi M. and T. Takahashi: Role of the Natural Environment Management Plan for Tama River in Integrated Watershed Management, 14th Global conference of the international association for the study of the commons, Oral presentation, June 3-7, Kitafuji, Japan (2013)
- 6) 平野和隆・梶山雄太・高橋俊守・山本美穂: 八溝地域における木造古民家の存在形態と林野との関係, 第 125 回日本森林学会大会、大宮ソニックシティ、2014 年 3 月 (ポスター No. P1-005)
- 7) 板津靖彦・梶山雄太・佐野薫・山本美穂: 新興スギ材産地の林業構造, 第 125 回日本森林学会大会、大宮ソニックシティ、2014 年 3 月 (ポスター No. P1-010)
- 8) 上田あずさ・梶山雄太・佐野薫・山本美穂: 地域材に対する施工者のニーズ, 第 125 回日本森林学会大会、大宮ソニックシティ、2014 年 3 月 (ポスター No. P1-009)
- 9) 山本美穂・梶山雄太: 北関東・たかはら林業地の展開過程, 林業経済学会 2014 年秋期大会、宮崎大学、2014 年 11 月 (発表番号 B16)
- 10) 中善寺涼・林宇一・山本美穂: 葬儀における木材利用の変遷 第 127 回日本森林学会大会、日本大学、2016 年 3 月 (ポスター No. P1-002)
- 11) 佐々木向・中善寺涼・山本美穂: 自営林家による林業機械利用の現状と課題, 第 127 回日本森林学会大会、日本大学、2016 年 3 月 (ポスター No. P1-009)
- 12) 小杉純・林宇一・山本美穂: 粟野川流域における狩猟者の行動様式, 第 127 回日本森林学会大会、日本大学、2016 年 3

- 月 (ポスターNo. P1-013)
- 13) Gaku Hara, Jun Kosugi, Miho Yamamoto: Field of elementary education and forestry , 第 127 回日本森林学会大会、日本大学、2016 年 3 月 (ポスターNo.P1-014)

〔図書〕(計 1 件)

- 1) 山本美穂: 地域と森林の時間軸・空間軸, 宇沢弘文・関良基編著, 社会的共通資本としての森, ISBN978-4-13-030252-4, 東京大学出版会, 167-191 (2015)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
取得年月日 :  
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本美穂 (YAMAMOTO, Miho)  
宇都宮大学農学部・教授  
研究者番号 : 10312399

(2) 研究分担者

高橋俊守 (TAKAHASHI, Toshimori)  
宇都宮大学地域デザイン科学部・教授  
研究者番号 : 20396815

(3) 研究協力者

大貫いさ子 (ONUKEI, Isako)  
(平成 25 年度)